

漁協青年部活動の強化，取組への支援

鹿児島地域振興局 林務水産課

【背景・目的】

西薩地区においても県下各地でみられる漁業者の高齢化と後継者不足は同様であり，現在，漁協青年部として活動をしているのは，昭和53年11月設立，部員数29名の江口漁協青年部のみとなっている。地域漁業の活性化を図るには中心となって動く漁業者が不可欠であり，その一翼を担うと言える存在が漁協青年部であることから，藻場保全や小学生の放流体験学習受け入れ等，継続的な活動になるよう取組みを支援した。

【普及の内容・特徴】

江口漁協は日置市多面的環境保全協議会（水産多面的機能発揮事業）の構成員となっており，海に関する活動（藻場の保全，種苗放流，漂流漂着物の処理等）を青年部が主体となり担った。また，ヒジキ場造成や観光地引き網，海浜公園の漂流物の流入防止等にも取組んだ。

- ・アマモ場造成：水産技術開発センターにて，アマモの生活史や生育環境等の研修を受けた上で，造成適地の見極めも兼ね9月26日にゾステラマット50枚を港内等3箇所に設置した。

種子は約1万粒（山川児ヶ水産）を流水下で成熟させて使用した。

- ・ヒジキ場造成：4月25日に谷山漁協からヒジキ（挟込みロープ約250m）を入手，海浜公園前に設置した。藻体は2m近く伸び生殖起床を確認，母藻として良好だった。

- ・ワカメ増養殖：ワカメ育成が順調であり平成25年度漁業権免許を受け，垂水市漁協から種糸600mを購入して江口漁港前に設置し増養殖に取り組んだ。

- ・放流体験学習：6月4日市内小学生40名にヒラメの体験放流と漁業に関する授業を行った。

- ・アオリイカ保護活動：禁漁区域のヒラメ育成礁近くにイカシバを設置した。

- ・漁場等への漂流物除去等：水中カメラを用いた漁場等への漂流・漂着物の状況等の調査，また，海面及び海浜等の漂着物除去作業を7月6日以降，適宜実施した。

- ・地引き網漁業体験及び観光地引き網：9月12日，19日に中学校の修学旅行生を対象に地引き網漁業体験と漁獲物を用いた魚食普及活動を行った。参加者は46名。

7～9月は青年部自主活動として観光地引き網を実施し，地域の活性化を図った。

【成果・活用】

- ・アマモ場造成：生態等を学び造成手法について理解を深め活動に当たることができた。

造成適地は外海に面し限られるが，順調に生育した箇所があり，次期（平成26年10月頃）の発芽等を見極めた上で造成適地を見い出していく。

- ・ヒジキ場造成：設置時の母藻状態は良かったが，波浪が強くロープが切れ流出したことから，テトラ等への直巻きや数株に分けて投込む等の対策が必要である。

- ・ワカメ増養殖：生育状況は良好で食害も少なかった。収穫物は蓬莱館のイベント景品等で配布し，地元産のワカメとして消費者にPRした。今後は商品として定着させたい。

- ・放流体験学習：漁業者による資源を守る取組み，また地域水産業の成り立ちや環境保全の大切さを子供達に理解してもらえる場となった。

- ・アオリイカ保護活動：産卵があり資源保護につながった。資源保護活動の写真は漁協等に掲示しているが，広くPRできるよう蓬莱館等の物産館での掲示を検討していく。

- ・漁場等への漂流物除去等：漂流物等の除去により漁場等の環境保全が図られた。調査では魚の蛸集，魚礁の埋没，海藻の生育状況等が把握でき魚礁設置や操業の参考となった。
- ・地引き網漁業体験：日置市水産業を学習する場となり，地産地消や魚食文化継承への理解が図られた。観光漁業は好評で市内外からの来訪により地域の活性化につながった。

【その他】

水産多面的機能発揮事業の実施により自ずと青年部の活動強化が図られたが，今後も持続的に活動できるよう，従来の活動内容に地産地消や都市部との交流など地域活性化につながる取組みを加え，公募型の事業導入も視野に入れ支援していく。



アマモ場造成（ゾステラマット）



ワカメ増養殖



放流体験学習（ヒラメ）



アオリイカ資源保護（イカシバ）



漁場等への漂流物除去



地引き網漁業体験